

8 トレイの設置方法

トレイ設置方法として、既存の資材を活用し、生産者自らトレイ台を設置しているのが一般的です。鋼管、もしくは鉄パイプとコンクリートブロックを組み合わせたものをよく目にします(図-8-1、-8-2)。当森林研究所の場合、鉄パイプ(直径19mm、長さ5.5m @1,580円相当)を使用しています(図-8-3)。その他に、水稲用の育苗トレイ(廃材)を積み重ねて鉄パイプの高さを調整し、育苗している例もあります(図-8-4)。いずれの方法も、空中根切り*を想定しています。逆に、トレイを直接地面に設置しますと、コンテナ苗の根が地面(キャビティ外)に出てしまいますので注意が必要です。なお、トレイ台の高さは膝の高さ程度あれば、トレイの運搬等の作業性は高くなります。



図-8-1 軽天材を使用したトレイ台
(豊並樹苗生産組合)



図-8-2 ハウス用ビニペットを使用したトレイ台
(豆原山林樹苗農園)



図-8-3 鉄パイプを使用したトレイ台



図-8-4 水稲育苗トレイ(廃材)を使用したトレイ台
(鏡野町生産者)

9 灌水(散水)

コンテナ苗の生産に当っては、夏場も含め、水の安定確保が必要不可欠となります。その上で、スプリンクラー等の散水施設があれば、これを使用し(図-9-1)、そうでなければ手灌水を行います。

コンテナ育苗を実施する場合、ハウス内では、トレイ表面の培地が乾燥しやすくなるため、種子の乾燥(発芽率低下)を防ぐ意味からも、ミスト灌水により、日に1~2回散水します。ミスト散水設備がない場合、目の細かいシャワー散水を実施します。

屋外(露地)では、できるだけ1回の灌水で、トレイの培地が飽和状態になるまで